

県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	I C T活用教育	提出日	平成31年2月14日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標
<p>[1]教育方針</p> <p>自立：自己の向上に努め、たくましく社会を生きぬく力を育成する 協同：お互いを思いやり、共に行動できる豊かな人間性を育成する 創造：実践をとおして、新たな価値を創造できる力を育成する 実践的な教育をとおして、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自主性・自立性を養い、社会人としての素養を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>[2]教育目標</p> <p>「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。 ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。 ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。 ④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>
2 重点項目に係る目標
<p>目標達成のための平成31年度重点目標</p> <p>教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。</p> <p>(1) 専門力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">各科の専門領域の基礎基本を身につけさせ、資格検定への積極的な挑戦を促す。学校の学びを地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す。G A P（農業生産工程管理）や県版H A C C P（危害分析重要管理点）の教育を通じ、安全安心な生産物供給と経営的な知識技能の基礎を身に付けさせる教育を推進する。これらの取組を通して地域の産業を担う専門人材を育成する。 <p>(2) 新たな学び方の創造</p> <ul style="list-style-type: none">協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学び方を積極的に実践する。I C Tの活用を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。高大接続改革に的確に対応できるように研究及び実践を推進する。専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。生徒に、仲間とともに「学ぶ喜び」「学ぶ責任」があることの意識を高める。 <p>(3) 社会に開く学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none">地域や産業界と連携を進め、学校での学びを社会で活かす能力の基礎を育てる。地域に本校の教育資源を提供し、産業界や地域の教育力を本校に導入することで、生徒の専門力を高める。異世代や障がいのある方との交流体験を通し、人権を尊重し、共に育つ共育を推進し、共生の心や自他を尊重する気持ちを育む。 <p>(4) 人生を生き抜く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none">高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開く意欲と素直さを身につけさせる。

- ・生徒の心情を十分に理解し、特別な支援が必要な生徒などにも十分に配慮を行う。
- ・教職員が方向を揃え保護者や地域と連携し、明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。

<数値目標>

- iPad を使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになった生徒の割合
(学校全体、学校評価アンケートより H29 56.2%・H30 67.7%) →H31 目標 70%以上 (アンケート等評価基準 B 以上)
 - ICT を活用した交流学习を通して、自ら進んでコミュニケーションが取れるようになった生徒の割合 (情報科学科、情報科学科アンケートより H29 88.3%・H30 86.7%) →H31 目標 80%以上 (アンケート等評価基準 A 以上)
 - iPad (タブレット型端末)を活用して授業を実施した教員の割合
(教職員、県活用状況調査より、H29 66.6%・H30 70.8%) →H31 目標 80%以上 (アンケート等評価基準 A 以上)
- ※学びの集団づくり WG で、H31 年度において iPad を活用した授業を実施した教員の割合を目標に到達するよう定期的に検証を行う。

3 事業計画 (事業名、事業概要)

【高等学校課事業】

(1) 外部人材活用事業

情報科学科のデザイン・プログラミング等の学習において専門の講師から知識や技術を学ぶことができる。これまでデザインの学習成果として、「食のみやこととり」ノベルティグッズの提案等を行ってきた。H31 年度は県主催イベントへの協力依頼があり、今後はプログラミングの学習成果を活かした小学校、特別支援学校との交流を含め、生徒がアウトプットしていく機会を増やしていきたい。

(2) ICT 学びの充実プロジェクト

学習支援クラウドサービス「Classi」を導入 (情報科学科の生徒全員。一人一台所有している iPad にアカウントを付与) するとともに、教員用 iPad (25 台) を導入し、継続的に生徒とやりとりすることにより、以下の 2 点について成果を検証する。

- ①生徒の学習時間の増加、学力向上 ②教員の授業改善 (授業の効率化を含む)

【独自事業】 新たな学び方の創造

ア. ICT 教育の推進

BYOD (Bring Your Own Device) の実行と検証 (情報科学科 iPad)

本校情報科学科では、生徒個人が iPad を入学時に購入し、授業等で活用しており、県内では先進的な学習活動を展開している。校内での ICT 教育をさらに推進するため、設備の更新やアプリケーションの活用を積極的に行う。本校での実践をとおして本県の ICT 教育の発展、情報発信に努めたい。また、特別支援学校・小学校との交流を通して、生徒のコミュニケーション能力、人間関係力を高め、各校との連携のもと有効な iPad 活用の推進に取り組む。

イ. ICT 活用・アクティブラーニングの推進

本校では平成 27 年度から全科共用の iPad が導入され、ICT を活用した授業改善に全職員で取り組んでいるところである。協同して学ぶ力や主体的に学ぶ力、言語活動能力の充実を目指している。アクティブラーニングや協同学習を推進するための研修や研究会等を通して指導力向上を図る。すべての授業における iPad 利用環境を整えるため、重点的に機器を整備していきたい。

【その他】

情報科学科では、学習支援ソフト (Classi) を活用した学習を実施している。授業での利用に加えて、SHR 時の諸連絡、自主学習、保護者との連携といった多様な活用を行っているが、H31 年度は、特に学習記録 (デジタルポートフォリオ) の取り組みを推進していきたい。

